

静岡県立大学附属図書館

## シリーズ 私の一冊の本

食品栄養科学部 谷 晃 先生

熊谷 はるか 著

## 『 JK、インドで常識ぶっ壊される 』

草薙閲覧室1階 292.5||Ku 33 河出書房新社

大学生の頃、冒険ものの本が好きでよく読みました。当時の趣味がオフロードバイクや登山でしたので、バイクでツーリングして世界を周るライダー、例えば賀曾利隆さんや、冒険家兼登山家の植村直己さんの冒険記が心に残っています。大学生時代、何かしないと、という焦りのようなものを感じ、アフリカサハラ沙漠へ植林に行くなどしました。友人にも海外を目指す人が多く、感化されたようです。今の自分があるのは、こういった若い頃の冒険心（と言えば大げさですが）が基盤となっていると思います。

ここ2年半のコロナ禍で、大学生の冒険心やチャレンジ精神が薄れていると感じています。これは、行動が制限される中で、思い切った行動をすとると、ややもすれば非難されるような風潮がありながら仕方ないことです。しかし、ポストコロナの新時代を迎えようとする中で、冒険心やチャレンジ精神を思い起こしてほしいと思います。

そのようなことを考えている中で、静岡新聞に紹介されていたこの本が目にとまりました。久しぶりに自分も冒険心を思い起こそうという軽い気持ちで購入して読みました。タイトルは読者の目を引くように、おちゃらけていま奇抜なタイトルですが、文章はしっかりと書かれています。女子高生（JK）の著者の原稿に編集者が大きく手を入れて読みやすく書いているのかと最初は思ったのですが、あとがきを読むと、「出版甲子園」というコンペティションで史上初となる高校生でのグランプリを受賞したとのこと、納得しました。父親の海外転勤先がインドと聞いてちょっと落胆した著者ですが、すぐに順応します。インドのカースト制度を目の当たりにして、著者なりに人を尊重する気持ちを大事にすることに気づいていきます。著者は観察眼が鋭く、かつそれを丁寧な描写でわかりやすい文章で書いています。バックグラウンドの知識も豊富ですが、それをひけらかすことなくさらっと書いています。だれでもそうですが、海外に行くと知らない所を訪れたいなったり、現地の人と交流したくなったりと、冒険心が掻き立てられます。学生の皆さんの中で、コロナで行動がちょっと停滞し、気分が乗らないなと感じている人は、この本を手にとってみてはいかがでしょうか？

なお、この原稿はマレーシアボルネオ島で書いています。気分が乗らなかったおじさんも、海外に来ると好奇心が湧いてきて元気が出てきました。（2022年9月末）